



新しい年の令和2年を迎えたのがつい先日のように感じますが、早いもので今年のカレンダーの1枚目が終わろうとしています。インフルエンザの流行とともに、急速に世界規模で感染の広がりを見せてきているコロナウイルスの情報が気になるところです。引き続き手洗い・うがいの励行等により、感染予防に努めていきましょう。



学校アンケートの結果

本校では、学校教育活動の充実を図るため、児童及び保護者のみなさんを対象に、毎年2学期末にアンケートを実施しています。保護者のみなさんには、ご多用の中をご協力いただき、ありがとうございました。ここに、集計結果及び分析した内容等について、その概要をお伝えします。

いずれのアンケートも、4段階（A：よくできている、B：おおむねできている、C：あまりできていない、D：できていない）で評価し、A及びBを「肯定的」、C及びDを「否定的」と判断して分析しています。

<児童アンケート>

「学校は楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合は90%で、昨年度よりも4%増えています。「楽しい」と感じる中身は学年によって異なるようですが、全ての子どもが「楽しい」と言えるよう、今後も「よりよい学校づくり」に取り組んでいきます。

【学習面】では、「授業がよくわかる」「先生や友だちの話をよく聞くことができた」と肯定的な回答をした児童の割合は、それぞれ87%・86%でしたが、「授業で進んで発表することができた」と肯定的な回答をした児童の割合は65%と低い数値を示しており、学年が上に進むほど数値が下がる傾向があります。

また、「授業中、粘り強く勉強することができた」「宿題や家での勉強ができた」と肯定的な回答をした児童の割合は、それぞれ80%・89%であり、いずれも昨年度よりアップしています。学習への意欲や態度に変化が見られ、家庭学習の定着化が進んでいるといえます。

「進んで読書をし、いろいろな本を読んだ」と肯定的な回答をした児童の割合は69%で、昨年度よりも8ポイント下がっています。学校では、「図書館まつり」を開催したり、保護者の「図書ボランティア」による図書館整備に取り組んだりするなど、図書館活動の充実には努めていますが、引き続き、子どもたちが本に親しみ、進んで読書に取り組めるよう、活動の工夫や環境整備等を進めていきます。



【生活面】では、「クラスや縦割り班などで、みんなと協力して活動することができた」「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にできた」と肯定的な回答をした児童の割合は、それぞれ90%・92%であり、いずれも昨年度よりアップしています。また、「友だちや先生から、大切にされていると思う」と肯定的な回答をした児童の割合は83%で、こちらも昨年度よりアップしています。

今年度は、全学年が単学級となったこともあり、年間を通して様々な場面で、子ども同士のかかわりを大切にし、つながりを深める取組を進めてきました。学年の枠を超えて、誰にでも優しい気持ちで接し、友だちを大切にできることは、本校の子どもたちの素晴らしいところであり、自慢できることです。全体的に見ると、自尊感情の低い子どもがまだまだ多いと感じますが、これからも、「豊かな人間関係づくり」に積極的に取り組んでいきます。

また、「きまりを守り、はじめのある行動ができた」と肯定的な回答をした児童の割合は84%で、昨年度よりもアップしています。ここでも、学習規律の定着や規範意識を高める指導への取組の成果が表れてきています。

【健康・安全面】では、「健康や安全（交通安全）に気をつけることができた」と肯定的な回答をした児童の割合は90%で、昨年度よりも3ポイント下がっています。特に1年生で69%と低い数値を示していますが、「登校班で列が乱れて、上級生から注意された」など、自ら反省すると同時に安全への意識をもっている姿が見られます。登下校の安全については、保護者や地域のみなさんのご協力によるところが大きく、感謝しております。また、交通安全のみならず、不審者からの防犯対策や猛暑による熱中症予防、インフルエンザの感染予防など、子どもたちの健康・安全を守るため、今後も保護者や地域のみなさんと連携・協力しながら取組を進めていきます。

<保護者アンケート>

「お子さんは、楽しく学校生活を送っていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした保護者の割合は96%で、昨年度よりアップしています。お子さんが学校を「楽しい」と感じ、笑顔で毎日通学できることは、保護者の願いであるとともに、学校教育の基盤となるものです。これからも、子どもたちの笑顔があふれる楽しい学校づくりに取り組んでいきます。

【学習面】では、「基礎的な力は定着してきているか」「聞く力はついてきているか」「話す力はついてきているか」の質問に、肯定的な回答をした保護者の割合は、それぞれ83%、75%、72%であり、昨年度より「基礎学力」と「聞く力」は少し数値が下がっているものの、「話す力」はアップしています。また、「聞く力」に比べ「話す力」の方が数値が低いのは、児童アンケートの結果と共通するところであり、学校や家庭において、子どもが「話しやすい」と感じ「話したくなる」環境づくりに、引き続き取り組んでいく必要があります。

「宿題や家での勉強を進んでいるか」の質問に、肯定的な回答をした保護者の割合は72%で、昨年度よりアップしています。しかし、児童アンケートにおける同じ質問への肯定的な回答の割合（89%）と大きな開きがあり、これは、保護者の「もっと自主的に取り組めるようになってほしい」という願いが含まれていることによるのではないのでしょうか。

「進んでいろいろな本を読んでいるか」の質問への肯定的な回答は42%で、昨年度より6ポイント下がっています。こちらも、児童アンケートの「読書」に関する項目の肯定的な回答の割合と大きな開きがあります。このことは、放課後や休日の過ごし方として、習い事やゲーム、テレビやパソコン等での動画の視聴に時間を費やすことが多いという、子どもの生活実態の変化が影響していると思われます。学校での「図書の日」や決められた時間の中で読書をするのはあっても、自由な時間の中で、自ら進んで読書をするのが減ってきているのは事実です。生活スタイルの変化とともに、子どもたちの時間の使い方も変化してきている現実と向き合い、家庭生活の見直しを行う必要があります。

【生活面】では、「きまりを守り、けじめある行動をしているか」「相手の気持ちを考え、友だちを大切にしているか」の質問に、肯定的な回答をした保護者の割合は、それぞれ87%・94%で、昨年度よりアップしています。こちらは、児童アンケートにおける同様の質問に対する肯定的な回答の割合よりも、それぞれ高い数値を示しており、それぞれのご家庭においても、規範意識を高め、思いやりの心を育てる躾や指導を、丁寧に行っているという意識の表れであると思います。

【学校の取組】については、「いじめや差別を許さない取組」への肯定的な回答は78%で、昨年度より6ポイント下がっています。また、「健康・安全への配慮」「家庭との連携」「ホームページ等による情報発信」への肯定的な回答は、それぞれ91%・86%・87%で、昨年度とほぼ同じ数値でした。学校では、日々の学校生活の中で起こる子ども同士の様々な出来事について、子どもの思いを受け止め、問題の解決や関係の修復等に、適宜対応するように努めています。また、道徳科をはじめとして、日常の教育活動全体を通して、様々な視点から人権教育を推進しています。今後も、保護者や地域のみなさんから信頼され、子どもたちが安心・安全で過ごせる開かれた学校づくりに努めていきます。

